

令和2年度（2020年度）

学校経営及び学校教育目標
（結果報告書）

大阪教育大学附属特別支援学校

1 附属特別支援学校の現況

(1) 学校名

大阪教育大学附属特別支援学校

(2) 所在地

大阪市平野区喜連4-8-71

(3) 学級数・収容定員

小学部（3学年；複式17名） 中学部（3学年18名） 高等部（3学年24名） 計9学級59名

(4) 幼児・児童・生徒数

59名（男子36名・女子23名）

(5) 教職員数

- ・校長(併任)1人、副校長1人、主幹教諭1人、指導教諭1人、教諭24人(内、臨時的雇用3人、育児休業1人、非常勤講師4人)
- ・事務職員2人(専任1人、事務補佐員1人) 非常勤栄養士1人、機能補佐員1人
- ・学校カウンセラー2人(非常勤)、委託(調理師)5人

2 附属特別支援学校の特徴

- ・本校は、知的障害のある児童生徒を対象として、一人ひとりの障害や発達の状況に応じた適切な教育を行うことを目的とした学校である。
- ・1学年1クラス（小学部は2学年で複式学級）で構成するなどきめ細やかな指導を目指す特別支援学校である。
- ・平野地域には附属五校園（幼稚園・小・中学校・高等学校・特別支援学校）が連携を行い研究や交流を深めている。

3 附属特別支援学校の役割

- (1) 大阪教育大学と一体となって、教育の理論と実際に関する研究を行うこと。
- (2) 本学の教育実習機関として実習生を受け入れ、適切な指導を行うこと。
- (3) 教育に関する理論を研究し、教育実践に役立てること。
- (4) 特別支援教育について地域に発信し、安全教育などについても取り組んでいくこと。

4 附属特別支援学校の学校教育目標

(1) 教育方針

- ・一人ひとりの人格と能力を尊重し、集団的あるいは個別的指導を通じて発達の可能性をより豊かに実現させる。

(2) 教育目標

- ・自立、社会参加に向けて一人ひとりの可能性を最大限に引き出す。
- ・キャリア教育の視点に立って卒業後の社会で生きる力を身につける。

(3) 目指す子ども像

- ・明るく健康で意欲的な子ども
- ・仲間とともに活動に参加できる子ども
- ・自分で考え行動できると同時に、社会の一員としての自覚を持つ子ども

5 附属特別支援学校の学校教育計画

○教育方針

- ・一人ひとりの人格と能力を尊重し、集団的あるいは個別的指導を通じて発達の可能性をより豊かに実現させる。

○教育目標

- ・自立、社会参加に向けて、一人ひとりの可能性を最大限に引き出す。
- ・キャリア教育の視点に立って、卒業後の社会で生きる力を身につける。

○重点目標（令和2年度）

- (1) 本校の児童生徒に対する質の高い教育実践の取り組みと安心・安全な学校づくりを行う。**
 - 1) 児童生徒の実態把握と「個別の教育支援計画」「個別の指導計画」の充実を図る取り組み
 - 2) 新学習指導要領の完全実施に向けた取り組み
 - 3) 教材・教具の工夫と ICT 機器を活用した授業
 - 4) 小・中・高等部の連携による縦のつながりと教育実践
- (2) 大学教員との連携による教員の専門性向上と研究開発の取り組みを行う。**
 - 1) 公開研修会の取り組み
 - 2) 大学教員との連携による個人研究等の支援
 - 3) 今後の教員養成に向けた学生の「教育実習・インターンシップ」等の支援
- (3) 特別支援学校のセンター的機能の発揮と地域連携の取り組みを行う。**
 - 1) 地域における特別支援学校のセンター的機能の発揮と特別支援教育センター教室事業の促進
 - 2) 大阪府立支援学校及び教育委員会との研修等における連携促進
 - 3) 平野地区附属五校園との連携型教育実践の促進
 - 4) 平野地域コミュニティと学校との連携の促進
- (4) キャリア教育の促進と自立に向けた生きる力を育成する取り組みを行う。**
 - 1) 自立に向けたキャリア教育の促進
 - 2) 社会性の醸成や生きる力を育てる教育の促進
- (5) 学校組織マネジメントと学校の活性化の取り組みを行う。**
 - 1) 企画運営委員会・職員会議による学校組織の安定的運営の促進
 - 2) 各学部・分掌等の組織点検と活性化の促進
 - 3) 個人が組織人としての役割を明確にした個々の役割の促進
- (6) 情報の発信と保護者・卒業生等の連携の促進を行う。**
 - 1) 学校 HP（ホームページ）の定期的更新と情報発信の促進
 - 2) 保護者との連携の促進
 - 3) 卒業生・芙蓉会等の後援会組織との連携の促進
 - 4) 防災等の取り組みを含む地域連携の促進

6 附属特別支援学校の令和2年度 重点目標(評価項目), 具体的な取組内容(評価指標)・評価結果

| 評価の基準 | | 自己評価 | | 学校関係者評価 | |
|-------|--------------|------|-----------|---------|--|
| A | 高いレベルで達成できた | A | とても適切である | | |
| B | 達成できた | B | おおむね適切である | | |
| C | 一部達成できなかった | C | あまり適切でない | | |
| D | ほとんど達成できなかった | D | 適切でない | | |
| | | E | 判定できない | | |

| | |
|--------|--|
| 学校教育目標 | 一人ひとりの人格と人権を尊重し、個別的・集団的指導を通じて、次に掲げる具体目標の達成に努め、発達の可能性をより豊かに実現させる。 ○ 明るく健康で意欲的な子ども ○ 仲間とともに活動に参加できる子ども ○ 自分で考え行動できると同時に、社会の一員としての自覚を持つ子ども |
| 学校教育計画 | 1. 本校の児童生徒に対する質の高い教育実践の取り組みと安心・安全な学校づくりを行う |

| 本年度の重点目標 (評価項目) | 具体的な取組内容 (評価指標) | 自己点検評価 | | | 学校関係者評価 | | 学校関係者評価を 踏まえた改善策 |
|--|---|---|---|----|---|----|---|
| | | 達成状況 | 改善点 | 評価 | 意見・理由 | 評価 | |
| (1) 児童生徒の実態把握 と「個別の教育支援計 画」「個別の指導計画」 の充実を図る取り組み | ①児童生徒に対しての障害理 解を図り、実態把握に努め、 「合理的配慮」の視点を重視 する。 | ・児童生徒のアセスメントに関し て個別の教育支援計画に各種検査 項目と合理的配慮の項目を追記し てプロフィール表の充実を図っ た。 | ・学部ごと、または個々のア セスメントの基準を明確に し、保護者と共有できるよう にする。 | A | ・個別の教育支援計画に項 目を追記し、見直しを行っ ている。 | A | ・今後も項目、内容に ついて追記、見直しを 行っていく必要がある。 |
| | ②教育指導の効果性と個別の 指導計画の作成・活用を図 る。 | ・個別の指導計画の充実を図り、 学部で共有することで学校行事や 授業に活かすことができた。 | ・小・中・高と継続した指導 計画を充実するためにキャリ アマトリックスの運用実践を 行った。 | A | ・個別の指導計画を担当だ けでなく学部で共有し活用 できているのは良いと思 う。 | A | ・継続した指導のため 定期的、または必要時 には全学部で共有す る。 |
| (2) 新学習指導要領の完 全実施に向けた取り組 み | ・新学習指導要領の改訂目標 や内容について理解を深め、 実践に移行するための取り組 みを行い、学習指導案に反映 する。 | ・新学習指導要領の目標にもある 「キャリア教育」に関する学部研 究において、研究実践報告会(2月 13日)で全国配信を行った。 | ・高等部の完全実施の移行に 向けて「キャリア教育の実 践」と全学部間の連携を図り 取り組めるようにしていき たい。 | A | ・「キャリア教育」につい ては保護者の期待も高く、研 究から実践に向けて取り組 んでほしい。 | A | ・より大学との連携を 深めていく必要があ る。 |

| | | | | | | | |
|---|----------------------------------|---|--|---|--|---|-------------------------------|
| (3)教材・教具の工夫と ICT 機器を活用した授業 | ①ICT 機器の活用とユニバーサルデザインの教育への応用を図る。 | ・コロナ禍の中 ICT を活用してオンライン授業や行事のビデオ配信の取り組みを行った。映像にも視覚化や焦点化を図るなど UDA の工夫を行った。 | ・情報配信環境の不具合があり、十分な運用が図れなかった。 | B | ・ ICT 機器があるのに情報ネットワーク環境が整備されておらず、活用できなかったには残念だ。 ・ネットワークの改善は可能なのか。 | B | ・新たに中継ポイントネットワークの構築について整備をした。 |
| | ②教材・教具の開発と実践の工夫を図る。 | ・デジタル連絡帳の次年度導入に向けて PT を立ち上げ、教員研修を実施した。 | ・デジタル連絡帳やギガスクール構想での機材配置ができつつあるが実際の活用や運用に向けた取り組みが求められる。 | B | ・デジタル連絡帳導入に向けての取り組みを進められている。 ・研修の機会を作るとの事を期待したい。 ・デジタル連絡帳による家庭 ICT 環境はどうか。 | B | ・必要な家庭には環境整備を図る支援策を講じている。 |
| (4)安全・安心な学校生活の確立と感染症防止に向けて小・中・高等部の連携による縦のつながりの強化。 | ①学部を超えた実践の促進を図る。 | ・新転任教員に他学部在一定時間他学部指導に入る等の学部間交流を行い、学部理解を深めることができた。 | ・今年度は例年と違うコロナ情勢もあり、児童生徒を含めた積極的な学部間交流ができなかった。次年度に向けた改善方策をする必要がある。 | B | ・今年度はコロナの影響で学部間の交流が難しかったのはやむを得ないと思う。 ・コロナ収束後は積極的な交流を進めてほしい。オンラインを活用しての交流も検討してほしい。 | B | ・学部間や他校とのオンライン交流についても検討していく。 |
| | ②感染症防止に向けた取り組みとマニュアルの改訂 | ・本校の感染症防止マニュアル改定 11 版を作成し、衛生面の徹底及び、学校行事の中止、延期、内容の変更等、感染防止に取り組めた。保護者への一斉メールの導入を図り周知できるようにした。 | ・新型コロナウイルス感染防止対応における危機管理に関して情報の提供が遅れるなどがあり改善することが必要。 | A | ・障害を持つ子ども達に対しては難しい部分も多かったと思うが、コロナ情勢に合わせて何度もマニュアルを改訂し、高い意識を持って感染防止対策に取り組んでいただいていた。 | A | ・情勢を鑑みながら適切に感染防止に努める。 |

| | | | | | | | |
|--|-------------------------|---|---|---|----------------------------------|---|--------------------------------|
| | ③学部を超えた教員間の連携による感染症の防止。 | ・各学部で授業や昼休み等の時間の他学部との交流活動を控えることで感染拡大の防止を図ることができた。 | ・感染防止の観点から学部間交流が制限されたが、オンラインなどの工夫を図り、今後検討していく必要がある。 | B | ・今年度は感染防止対策を優先し、交流を制限したのはやむを得ない。 | B | ・ICTを活用する等して交流活動を実施できるようにしていく。 |
|--|-------------------------|---|---|---|----------------------------------|---|--------------------------------|

| | | | | | | | |
|--------|--|--|--|--|--|--|--|
| 学校教育目標 | 一人ひとりの人格と人権を尊重し、個別的・集団的指導を通じて、次に掲げる具体目標の達成に努め、発達の可能性をより豊かに実現させる。 ○ 明るく健康で意欲的な子ども ○ 仲間とともに活動に参加できる子ども ○ 自分で考え行動できると同時に、社会の一員としての自覚を持つ子ども | | | | | | |
| 学校教育計画 | 2. 大学教員との連携による教員の専門性向上と研究開発の取り組みを行う | | | | | | |

| 本年度の重点目標 (評価項目) | 具体的な取組内容 (評価指標) | 自己点検評価 | | | 学校関係者評価 | | 学校関係者評価を 踏まえた改善策 |
|--|--|---|--|----|---|----|---|
| | | 達成状況 | 改善点 | 評価 | 意見・理由 | 評価 | |
| (1) 公開研修会の取組み | ・公開研修会を行い、受講者に対して特別支援教育の理解・啓発を図る。 | ・当初計画していた夏季の公開研修会は中止となった。 | ・次年度については、新たな計画として「学校園教員のための特別支援教育講座」エクステーション研修を行う。 | B | ・コロナ情勢で研修会が行えなかったのはやむを得ない。 | B | ・ICTを活用する等、研修の持ち方を工夫する。 |
| (2) 大学教員との連携による個人研究等の支援 | ・大学教員と普段からの連携を促進して個人の研究や研鑽に資する。研究ユニットの充実と発展を行い、成果を紀要に収録する。 | ・5つの研究ユニットで大学教員との共同研究を行い、令和2年度の研究紀要に収録することができた。また、研究を深めることができた。 | ・研究ユニットによっては今年度、コロナ事情で大学教員との連携があまりとれなかったこともあり、次年度のに向けた改善策を検討する必要がある。 | B | ・コロナ渦で先生方の業務が増加し、多忙だったと思うが、そのような状況の中、共同研究を行うことができたことを評価したい。 ・研究紀要の発信先。ネットワーク配信 zoom 等。 | A | ・オンラインでの打ち合わせを積極的に取り入れていく。 |
| (3) 今後の教員育成に向けた学生の「教育実習・インターンシップ」などの支援 | ①大学と連携を図り、指導教諭を核として今後の教育実習生等の受け入れに関する協議を継続的に行う。 | ・実習前に大学実習担当及び部門担当教員とで受け入れ人数、実習生の実態把握等を協議しスムーズに実習を行うことができた。 | ・学生の配慮事項や指導に関して大学と一層の共通理解をより深める必要がある。 | A | ・コロナ渦の中、実習の受け入れについて検討を重ねられた事と思うが、スムーズに実習を行う事ができて良かったと思う。 | A | ・専攻科や教職大学院生等、学生に応じた実習期間や内容を受け入れ前に確認し、スムーズに行う。 |

| | | | | | | | |
|--|---|--|---|----------|--|----------|---|
| | <p>②今後の特別支援教育を目指す学生の障害理解とその人材育成を図る。</p> | <p>・学生には特別支援教育の理解・啓発に向けて「リーフレット」を作成して配布した。本校で学生支援員として一定期間採用して育成を図った。</p> | <p>・今年度は新型コロナの事情により直接かかわることの制限があり、体験実習等の成果が乏しかったので内容の工夫等を図る必要がある。</p> | <p>B</p> | <p>・学生によっては特別支援教育や障害について知識が少ない事もあると思う。リーフレットの作成、配布は良い取り組みだと思う。</p> | <p>A</p> | <p>・学生のより障害理解の向上のため、実習の内容について工夫、見直しが必要。</p> |
|--|---|--|---|----------|--|----------|---|

| | |
|--------|--|
| 学校教育目標 | 一人ひとりの人格と人権を尊重し、個別的・集団的指導を通じて、次に掲げる具体目標の達成に努め、発達の可能性をより豊かに実現させる。 ○ 明るく健康で意欲的な子ども ○ 仲間とともに活動に参加できる子ども ○ 自分で考え行動できると同時に、社会の一員としての自覚を持つ子ども |
| 学校教育計画 | 3. 特別支援学校のセンター的機能の発揮と地域連携の取り組みを行う。 |

| 本年度の重点目標 (評価項目) | 具体的な取組内容 (評価指標) | 自己点検評価 | | | 学校関係者評価 | | 学校関係者評価を 踏まえた改善策 |
|---|--|---|--|----|--|----|---|
| | | 達成状況 | 改善点 | 評価 | 意見・理由 | 評価 | |
| (1) 地域における特別支援学校のセンター的機能の発揮と特別支援教育センター教室事業の促進 | ①特別支援教育コーディネーターによる特別支援学校のセンター的機能発揮のために支援アドバイザーを配置する。 ②附属特別支援教育相談・支援センターの機能強化を図る。 ③大阪府教育委員会インクルーシブ担当者との連携強化を図る。 | ①相談支援アドバイザーとして森田安徳先生を迎え、センターの機能強化とコーディネーターの専門性の向上を図った。 ②地域の学校園からの相談ケースの増加が昨年度からみられ認知が高まった。 ③大阪府教育庁支援教育課や大阪府教育委員会インクルーシブ教育推進室とも連携・調整を行い、本取り組みの周知を行うことができた。 | ①附属特別支援学校の相談・支援センターとしてのさらなる機能強化として情報発信の充実に向けた取り組みが必要となってくる。 ②コーディネーターのさらなる専門性の向上が求められる。 ③更に教育委員会との連携を深めるために定期訪問や連絡会を行う必要がある。 | A | ・こうした取り組みは地域における附属特別支援学校の存在価値を高めることにつながると思う。 | A | ・センターの取り組みについての情報を積極的に発信することで、より各所との連携が見込まれると考えられる。 |
| (2) 大阪府立支援学校及び教育委員会との研修等における連携促進 | ・教育委員会、府立支援学校長会と連携を図り、研修・講座などのニーズに応えられるよう実践を模索する。 | ・人権研修として大阪府教育庁から講師を招いて「子どもの人権と虐待防止」について研修を行った。 | ・教育委員会や府立支援学校等との連携が取れていないことから改善方策をする必要がある。 | B | ・府立支援学校や教育委員会との連携が必要であれば連携できるよう改善を進めてほしい。 | B | ・次年度に向けて取り組み強化を図る。 |

| | | | | | | | |
|----------------------------------|--|---|--|----------|--|----------|--------------------------------|
| <p>(3) 平野地区附属五校園との連携型教育実践の促進</p> | <p>①附属平野地域の共同研究協議会の活動と連携の強化を図る。 ②PTA 等を含む連携の促進。 ③障害理解と共に学ぶ環境の醸成を図り、交流及び共同学習の促進を行う。</p> | <p>①今年度新型コロナ事情で共同での交流研究協議会、研究集会、研究大会を中止としたが、研究収録として「コモン・リーブリック」や「実践のまとめ」を収録することができた。 ②平野地域における防災の取り組み「BOUSAI キャラバン」は新型コロナ事情で中止とした。 ③附属平野五校園の児童生徒間の交流については中止とした。</p> | <p>①附属平野五校園共同での交流研究協議会、研究集会、研究大会については、主幹校が附属特別支援学校となる関係上、その体制を整える必要がある。 ②平野地域における防災の取り組みの継続性を検討する必要がある。 ③附属平野五校園の交流及び共同学習の在り方について検討をする必要がある。</p> | <p>C</p> | <p>・今年度はコロナ事情で五校園が連携しての活動は難しかったと思う。その中で研究をまとめられ、制限のある中でできる事に取り組まれていると思う。</p> | <p>B</p> | <p>・次年度五校園の研究主幹校として取り組む予定。</p> |
|----------------------------------|--|---|--|----------|--|----------|--------------------------------|

| | |
|---------------|--|
| <p>学校教育目標</p> | <p>一人ひとりの人格と人権を尊重し、個別的・集団的指導を通じて、次に掲げる具体目標の達成に努め、発達の可能性をより豊かに実現させる。 ○ 明るく健康で意欲的な子ども ○ 仲間とともに活動に参加できる子ども ○ 自分で考え行動できると同時に、社会の一員としての自覚を持つ子ども</p> |
| <p>学校教育計画</p> | <p>4. キャリア教育の促進と自立に向けた生きる力を育成する取り組みを行う</p> |

| <p>本年度の重点目標 (評価項目)</p> | <p>具体的な取組内容 (評価指標)</p> | <p>自己点検評価</p> | | | <p>学校関係者評価</p> | | <p>学校関係者評価を 踏まえた改善策</p> |
|----------------------------|---|---|---|-----------|---|-----------|-------------------------------|
| | | <p>達成状況</p> | <p>改善点</p> | <p>評価</p> | <p>意見・理由</p> | <p>評価</p> | |
| <p>(1) 自立に向けたキャリア教育の促進</p> | <p>①職業リハビリテーションセンター及び障害者就業・生活支援センターなどの連携を図り、卒業後の自立の在り方について検討する。</p> | <p>①関係諸機関と連絡を密にし、本人・保護者に適切な情報提供や相談ができるように努めた。高等部3年生の進路先について概ねニーズに基づいた進路指導を行うことができた。</p> | <p>・進路選択や自立に向けて引き続き関係諸機関と連携を図っていく必要がある。</p> | <p>B</p> | <p>・卒業後の進路決定について学校からの情報提供や、相談体制は整っていると感じる。 ・リモートによる出前講座を実施している企業もあるので活用を図ってみては。</p> | <p>A</p> | <p>・リモートや出前講座等の利用を検討していく。</p> |

| | | | | | | | |
|--------------------------|--|--|---|---|--|---|----------------------------|
| | ②各学部キャリアライフステージにおける自立支援のマトリックス表を活用して実践をする。 | ②今年度「キャリアマトリックス」を作成し次年度の運用に向けた実践事例を報告できた。 | ・次年度に向けてさらに運用の在り方や改定に向けて実践を深める必要がある。 | B | ・キャリア教育について次年度へ向けた取り組みが行われていた。 ・キャリアマトリックスを拝見できればと思います。 | B | ・キャリアマトリックスの実践成果をHP等に掲載する。 |
| (2) 社会性の醸成や生きる力を育てる教育の促進 | ・SST(ソーシャルスキルトレーニング)の効果的な活用やその応用に向けた教育課程上の検討を図る。 | ・SSTの実践的取り組みとして各学部において自立活動や体験学習等の教育課程を意図して実践できた。 | ・各学部でより具体的な取り組みの共有化を図り、実践を積み重ねていく課題がある。 | B | ・自然にソーシャルスキルを身につける事が難しい児童生徒も多い学校の教育活動の中で取り組んでいただいているのはありがたい。 | B | ・高等部でSSTの授業課題を設ける。 |

| | |
|--------|--|
| 学校教育目標 | 一人ひとりの人格と人権を尊重し、個別的・集団的指導を通じて、次に掲げる具体目標の達成に努め、発達の可能性をより豊かに実現させる。 ○ 明るく健康で意欲的な子ども ○ 仲間とともに活動に参加できる子ども ○ 自分で考え行動できると同時に、社会の一員としての自覚を持つ子ども |
| 学校教育計画 | 5. 学校組織マネジメントと学校の活性化の取り組みを行う |

| 本年度の重点目標 (評価項目) | 具体的な取組内容 (評価指標) | 自己点検評価 | | | 学校関係者評価 | | 学校関係者評価を 踏まえた改善策 |
|----------------------------------|--|--|---|----|---------------------------------------|----|-----------------------------------|
| | | 達成状況 | 改善点 | 評価 | 意見・理由 | 評価 | |
| (1) 企画運営委員会・職員会議による学校組織の安定的運営の促進 | ①企画運営委員会の工夫 ②職員会議、学部会議、校務部会などにおける内容の精選と時間短縮を図る。 | ①学校運営にかかるSWOT分析を行い、今後の組織改善策の共有を図った。 ②各部門の会議についても終了時間を決め、効率よく実施することができた。 | ①教員が学校経営に参画できる意識を持てるように今後、環境等を整えていく必要がある。 ②引き続き「教員の働き改革」の視点を持って改善策を講ずる必要がある。 | A | ・今後の組織改善の取り組みや会議時間短縮の取り組みはとても良い事だと思う。 | A | ・会議において、より内容を精査し、効率よく実施していく必要がある。 |

| | | | | | | | |
|--------------------------------|---|---|---|---|-------------------------------------|---|------------------------------------|
| (2) 各学部・分掌等の組織点検と活性化の促進 | ①学部の組織点検を図る。 ②分掌等の組織点検を図る。 | ①学校主事を3名とも新規に任命し学部間連携の調整を図るために主幹教諭が当たった。 ②各分掌長に対してSWOT分析を課して、組織点検を図った。 | ①各学部主事間の連携を更に図り、小学部から高等部までの教育課程の連結等を意図できるようにする必要がある。 ②引き続き、分掌長が組織運営にかかる点検を運営委員会等にあげられるようにする。 | A | ・現状を分析し、組織における問題点がないかを確認することができている。 | A | ・常に学校組織について検討、見直しを実施していき、組織の充実を図る。 |
| (3) 個人が組織人としての役割を明確にした個々の役割の促進 | ①個々が校務における自己の立場や役割を意識しその実践に取り組む。 ②教育公務員としての法令遵守・規律と人権感覚を醸成した意識を涵養する。 | ①それぞれの学部や校務分掌等で役割を意識し、教育や研究に取り組めた。 ②毎週の職員集会では必要な際に情報提供を行い人権感覚における醸成意識を促した。 | ①学部間での連携を図れるように普段から情報共有が行なえる環境を築く必要がある。 ②少ない教職員の中なので、教員の同僚性を発揮できるようにする必要がある。 | B | ・組織をより良くするために必要な取り組みだと思う。 | B | ・日頃より法令遵守・規律と人権意識を持ち、学校業務にあたる。 |

| | |
|--------|--|
| 学校教育目標 | 一人ひとりの人格と人権を尊重し、個別的・集団的指導を通じて、次に掲げる具体目標の達成に努め、発達の可能性をより豊かに実現させる。 ○ 明るく健康で意欲的な子ども ○ 仲間とともに活動に参加できる子ども ○ 自分で考え行動できると同時に、社会の一員としての自覚を持つ子ども |
| 学校教育計画 | 6. 情報の発信と保護者・卒業生等の連携の促進を行う |

| 本年度の重点目標 (評価項目) | 具体的な取組内容 (評価指標) | 自己点検評価 | | | 学校関係者評価 | | 学校関係者評価を踏まえた改善策 |
|------------------------|-------------------------------|--|--|----|---|----|-----------------------|
| | | 達成状況 | 改善点 | 評価 | 意見・理由 | 評価 | |
| (1) 学校HP(ホームページ)の定期的更新 | ・学校全体及び各学部の取り組みについて定期的な発信をする。 | ・校長だよりを毎月アップし、学校の様子を伝えることができた。学部ごとに活動内容を紹介した。 ・コロナ情勢による変更に関してHPで発信し、保護者、卒業生に周知を行った。 | ・相談・支援センターや学校での活動の様子等、より分かりやすい工夫をして発信することが必要である。 | A | ・客観的に見て学校HPは少し古く感じる。見にくいという印象をうけるが、必要な情報は提供されている。 ・写真を多く取り入れ、非常に読みやすく感じました。 ・予算が許すのならリニューアル | A | ・ホームページのリニューアルの検討を行う。 |

| | | | | | | | |
|---------------------------|---|---|--|---|---|---|--|
| | | | | | アルも検討していただけたらと思う。 | | |
| 2)保護者との連携の促進 | <ul style="list-style-type: none"> PTA の活動への支援及び連携を図り各学部の取り組みと保護者との連携の促進を図る。 | <ul style="list-style-type: none"> PTA 総会は書面総会にて行った。代表者委員会については6月から実施し、PTA 活動について協議し、規約改正等を行った。 | <ul style="list-style-type: none"> 役員・保護者の負担が多いことから、PTA 活動の内容の精査が必要である。 | B | <ul style="list-style-type: none"> コロナ渦の中、学校側はPTA 活動が難しい事を理解し、いろいろな面で協力してくれたと思う。 今後のPTA 活動についてはコロナを契機に変えていこうという気運が高まっていると感じる。内容を精査し、取捨選択する必要があると思う。 | A | <ul style="list-style-type: none"> 今後できるだけ3密を回避や換気をすることでPTA 総会を校内で実施し、規約やPTA 活動の内容についても協議していく必要がある。 |
| (3)卒業生・芙蓉会などの後援会組織との連携の促進 | <ul style="list-style-type: none"> 担当者を中心に芙蓉会の行事調整や参加を行う。 | <ul style="list-style-type: none"> 新型コロナ事情により、青年学級、運動会、成人式等の卒業生の参加を禁止せざるをえなかった。 | <ul style="list-style-type: none"> 卒業生の青年学級、成人式等の行事内容の精査が必要である。 | B | <ul style="list-style-type: none"> 今年度はコロナ情勢でやむを得なかったと思う。 卒業後もこの学校に来ることを楽しみにしている卒業生のためにコロナ収束後は行事への参加を再開してほしい。行事内容については先生方や保護者の負担を考え、見直す必要があると思う。 | B | <ul style="list-style-type: none"> 各行事の精査と見直しを図る予定。 |
| (4)防災等の取り組みを含む地域連携の促進 | <ul style="list-style-type: none"> ①防災などの取り組みの連携 ②防犯などについての連携 | <ul style="list-style-type: none"> ①各学期始めに学校の安全・安心に向けて防災の避難訓練を新型コロナ感染に留意して取り組んだ。 ②学期初めに不審者を想定した防犯の訓練を行い備えることができた。 | <ul style="list-style-type: none"> ①救急救命訓練等については新型コロナの制限でも出来る工夫が必要である。 ②防犯・不審者防止訓練等については警察との連携がさらに必要である。 | B | <ul style="list-style-type: none"> 避難訓練や不審者の侵入に備えた防犯訓練などにしっかり取り組んでいただき、児童生徒の意識を高めることができていると感じる。 災害時の避難所としてすでに地域に協力していただいますが、今後も更に連携を深めていただこうと思います。 | A | <ul style="list-style-type: none"> 更に近隣の地域の方との連携も深めていく保津用がある。 |